

市長からのお願い

「小中学校の開始を楽しみにしていた子どもたちと保護者の皆様へ」

今回の授業開始の延期判断について、ご心配やご不満を抱かれた方々もおられると思います。

お子様への対応とお仕事との両立でご苦勞をおかけしたり、お子様の学習や成長に不安を与えたり、お子様が楽しみにしていた学校生活を奪ったり、その影響の大きさを痛感しています。

しかし、新型コロナウイルスの猛威を考えると、授業を予定通り行いながら、なおかつ子どもたちの安全・安心を両立して守ることは、現時点では、行政や学校として確信が持てません。延期に伴う様々な影響に対し、全力でカバーしていきますが、それらの大きな影響と比較しても、私たち行政や学校が、何よりも優先して守らなければならないのは、子どもたちの命であると判断しました。

そこで、以下の理由を踏まえ、ここで授業を予定通り開始するのではなく、もう少し状況を見極めるべきと判断し、授業の開始時期を延期することとしました。

(延期の理由)

- 感染リスクは3月から好転しているとは言い難く、子どもたちや子どもたちを通じた感染を拡大させないよう、安全・安心を最優先に判断したため。
- 犬山市でも複数の感染者が確認され、特に可児市スポーツジムでの集団感染は、犬山市にも大きな影響があります。可児市に関する新型コロナウイルスの潜伏期間の終了時期は、4月6日(月)と見込まれますが、安全・安心を考慮すると、さらに休業期間を長く取った方が良いと判断したため。
- 感染経路不明の感染者が爆発的に増加してからの対応では、深刻な事態を招くこととなります。今が重大な局面ととらえ、引き続き警戒すべきと考えたため。

「事前の一策は、事後の百策に勝る」との言葉があります。事態が深刻化してから対応するのではなく、事態を深刻化させないための対応が必要です。たとえ空振りになっても、子どもたちの命を守るため、今は事前の一策が重要と判断した結果です。

保育園はやっていて、学校や幼稚園を休業するのは意味があるのか、満員電車はいいのかなど、今やっていることが矛盾をはらんでいることは認識しています。でも、だからと言って、可能な限りリスクを小さくする努力を、しなくていいという理由にはなりません。

都市封鎖とならない限り、社会活動を維持しながら、リスクを小さくすることは、ゼロか百かで決まりません。何もしない場合のリスクを100とすれば、アクションを起こすことで、リスクを60や50に小さくできるなら、その行為の意義はあると考えます。

この未曾有の感染症との戦いは、社会全体で乗り越えていかなければなりません。こうした判断を下したことに對し、どうかご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、判断にあたっての医学的・科学的根拠はありません。情勢を踏まえた政治判断です。ご批判はすべて私が受け止めます。

令和2年4月3日

犬山市長 山田拓郎